

(2) 竹島小学校

学 校 長 北代 大
校内研究代表者 岡崎 美和

1. 研究主題

「主体的に問題解決に取り組み、対話を通して、深い学びへと向かう授業づくり」
～自力解決から対話活動につながる授業を目指して～

2. 主題設定の理由

本校は、四万十川の下流に位置し、豊かな自然に恵まれるとともに、学校教育にかかわっても地域のあたたかい支援を受ける等、恵まれた環境にある。子ども達は仲が良く、素直で明るい。全校児童は59名で、7学級編制（特別支援学級1学級を含む）の小規模校である。

一昨年度より、研究主題を『主体的に問題解決に取り組み、対話を通して、深い学びへと向かう授業づくり』とし、算数科を研究教科とし、授業研究を中心に研究を進めてきた。問題解決の過程を重視した学習のスタイルのアウトラインを確立し、目指すべき授業の方向性についての共通理解が図られてきたことや、竹島小授業スタンダードにもとづく問題解決型の授業実践の拡大、各種学力調査結果における児童の学力状況の向上等の成果の一端も現れつつある。

全国学力・学習状況調査をはじめ各種学力調査結果からも、基礎的・基本的な内容については、確実にその定着が図られてきていることがうかがえる。言語活動の充実を図りつつ、授業改善に取り組んできた成果であると考えている。一方で、思考力・判断力・表現力にかかわる、習得した知識・技能等を様々な場面に活用する力や問題解決に向かって構想を立て課題解決する力、自身の学習を振り返り、評価・改善する力については、いっそうの向上が求められる。

こうした課題をふまえ、今年度は教育目標『たくましく未来を切り拓く児童の育成』のもと、確かな学力の育成に向け、研究主題を『主体的に問題解決に取り組み、対話を通して、深い学びへと向かう授業づくり』とし、自立解決から対話活動につながる授業を目指し「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」の三つの視点から、実践的研究を進めていくこととした。授業では、対話を通して学習意欲を高め、見方・考え方を働かせながら、質の高い深い学びへと向かっていくという授業イメージの共有を図り、学習の過程を重視した授業改善を通して児童に求められる資質・能力の育成を図っていく。また、問題解決の質的向上に向け、全教員が目指す授業についての共有を図り、児童の学習意欲を高め、学びの価値及び児童が自身の向上を実感することのできる授業づくりを目指す。家庭学習等では、基礎・基本の徹底を図る取り組みとして、予習を取り入れた自主学習ノートの指導を行い、各学級の実態や取り組みについての実践交流を深め、学校全体への取り組みへとつなげていく。自ら考え行動し表現する力を高めるため、発表朝会や委員会活動、行事等においても、子どもたちが主体的に活動できる場をつくり児童の学習に向かう意欲を高め有効なものとしていく。このように研究を進めることで、児童一人一人の未来を切り開いていく力につなげていきたい。

3. 研究の進め方

(1) 研究仮説

〈仮説1〉

- ・児童に身に付ける資質・能力を明確にし、児童の学習意欲を喚起する問題場面を設定し、問題意識をもって課題解決に向かうことができれば、主体的に学習に取り組む児童が育つであろう。

〈仮説2〉

- ・問題解決における見方・考え方を明確にし、思考し、表現する場と、思考について相互交流する場を設定するとともに、このような学習活動をスパイラルに効果的に取り入れることにより、深い学びへと向かい、学習したことの価値と自身の向上を児童が実感することができるであろう。

(2) 研究組織

- 研修部会 学習部会 (2年、3年(研究主任)、5年、校長)
- 生活部会 (1年(教頭)、4年、あおぞら、6年、養護)

- 学年ブロック 低学年部会（1年（教頭）、2年、養護）
 中学年部会（3年、4年、あおぞら）
 高学年部会（5年、6年、校長）

(3) 授業研究

- ・算数科の授業研究（一人年間1回）
- ・その他：学級活動における防災学習（3回）、特別な教科道徳（3回）

4. 今年度の取組

(1) 基礎学力をつける取組

- ・学習規律の徹底（聞き方名人の表彰）
- ・朝学習・帯タイムの充実（新出漢字の指導の統一、全校チャレンジタイムの実施）
- ・竹島漢字検定の実施（月末木曜日の放課後）
- ・実践交流（自主学習ノート指導）
- ・自己表現できる場の設定〈表現する力・考えながら聞く力をつける〉
 （授業展開・朝会活動・発表朝会・行事後の感想 等）
- ・家庭学習の充実（家庭学習チェックシート・家庭学習の手引き・学習ノートの相互交流及び評価）
- ・読書活動の充実（読書タイム・学年課題図書・各学年の読書目標）

(2) 授業改善

- ・研究テーマ・研究仮説に基づく日々の授業実践・竹島小授業スタンダードの活用
- ・主体的・対話的で深い学びについて授業像・児童像の共有を図る、模擬授業の実施
- ・教材研究・授業研究の充実（算数科・特別な教科道徳・学級活動（防災） 講師招聘）
- ・授業チェックリストの活用（参観者用・授業者用）
- ・外国語活動（英語指導教員・ALTの活用・コミュニケーション能力の育成）
- ・授業におけるICT（主にタブレット）の活用

教科・領域	日	学年	単元・教材名
算数科	6月 9日	5年	わり算の世界を広げよう
	7月 7日	2年	100より大きい数をしらべよう
	9月 8日	1年	わかりやすくせいりしよう
	10月13日	4年	計算のやくそくを調べよう
	11月24日	6年	順序よく整理して調べよう
学級活動（防災）	5月26日	1年	地震が来たらどうするの
	10月20日	3年	災害発生！あなたならどうする（諏訪先生の授業）
	1月28日	6年	命を守るために
特別な教科 道徳	6月16日	3年	金色の魚
	12月 2日	2年	ふわふわことば ちくちくことば
	12月 2日	5年	ぼくは伴走者

(3) 防災教育の推進

- ・防災についての職員研修
- ・講師として、防災学習アドバイザー・コラボレーター 諏訪清二先生を招聘し授業研究及び講話・グループワークの実施
- ・防災参観日の充実
- ・授業公開及び合同防災学習

(4) 探究的活動に基づく総合的な学習の時間の実践

- ・体験学習を取り入れ、ふるさとを語り、ふるさとを誇れる児童の育成

・各教科と関連づけた防災学習

(5) 道徳教育の推進

- ・道徳教育の全体計画及び、特別の教科道徳の指導計画の整備並びに計画に基づく確実な実践
- ・道徳参観日の充実
- ・四万十市・三原村道徳教育推進委員会授業公開の実施

(6) 人権教育の推進

- ・体験学習の重視 ・講師招聘（心の教育参観日での講演会） ・障がいのある方々の理解教育
- ・学級集団づくり、学校集団づくり ・特別支援教育の推進、人権参観日、校内支援委員会の充実、SCによるエンカウンター

5. 今年度の成果（○）と課題（●）

- 計画どおり全学級において算数と学級活動（防災学習）、特別な教科道徳の授業研究を実施することができた。2学期からは授業者用・参観者用の授業チェックシートを活用することで、協議のマンネリ化を防ぐと共に、研究主題に迫るような対話活動を焦点化した協議となってきた。またチェックシートを活用することで教師自身の授業改善につながってきた。
- 自主学习を中心としたノート指導の実践交流では、児童の発達段階に応じた内容になっているか、予習をどのように取り組んでいるかなど教師自身も見合うことで参考になった。また、児童も高学年や友だちのノートを見ることで意欲付けになり工夫し進んで取り組めるようになってきつつある。
- 防災学習については、具体的に地震が発生したときの状況を考えながら校区の地域性を生かした授業を工夫して考え、より自分事として考えられるようになってきた。学級活動で学習したことを各教科や総合的な学習の時間、また、自分たちの生活と結びつけ、地域をフィールドとして学習を進めることができた。
- 授業の導入では児童の学習意欲を喚起するような日常の生活場面と関連付けた問題場面を設定した。また振り返り・適用問題を行うことで学習への理解を深め、児童の深い学びへと結び付くよう日々取り組むことができた。
- 防災学習の内容を発達段階に考慮して系統的に進め、他教科との関連をより一層図っていく必要がある。また、保護者・地域への情報発信に努め、より連携した取組としていく必要がある。
- 研究テーマにせまる深い学びへと向かうために、授業において適宜書く活動を取り入れ、自身の学びを振り返り、よりよい問題解決へとつながられるよう、柔軟に資質・能力を育む授業展開を工夫していく必要がある。

《来年度に向けて》

- ☆研究授業を行った算数科以外の教科でも問題解決型の授業展開に向けて、研究を進めていく。また、授業改善の研究の積み重ねが図られるよう、研究協議後の改善方策の確実な実施とその検証により、授業改善のPDCAサイクルを展開していく。さらに教師自身による授業チェックリストを継続して行い指導力の向上につなげていく。
- ☆目指すべき主体的・対話的で深い学びが具現化された授業について、全教員が明確な授業イメージを持ち実践し共有を図っていくために、研究仮説にもとづく視点を絞った研究協議を継続していく。
- ☆育む力を明確にし、興味・関心を高める授業改善を継続するとともに、学習したことの価値づけ・評価・検証を行い、児童の成長実感を高め、確かな学力保障につなげていく。
- ☆防災教育については、教育課程における総合的な学習の時間との関連を工夫・改善し、地域をフィールドに人材を積極的に活用し、地域を巻き込んだ教育活動で防災・減災力を高めていく。